

岐阜県経済の現状



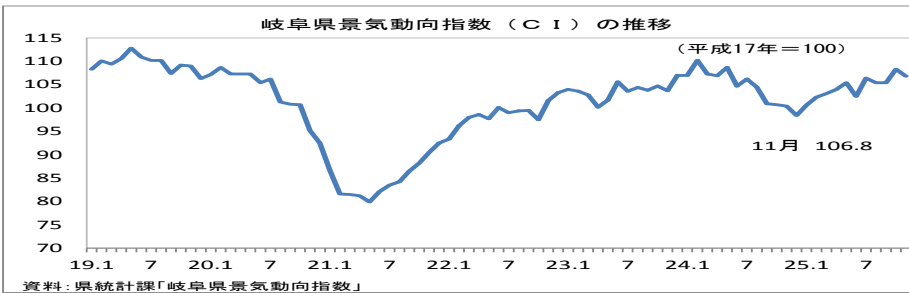
平成26年1月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは2月3日～5日を中心に実施し、2月17日に作成。

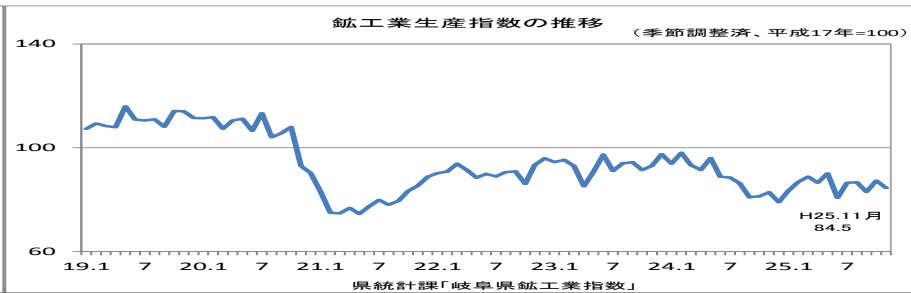
景気動向・製造業

○11月の景気動向指数(CI、一致指数)は106.8と前月より1.9ポイント下降。県内中小企業の11月の景況感 Δ 4であった。

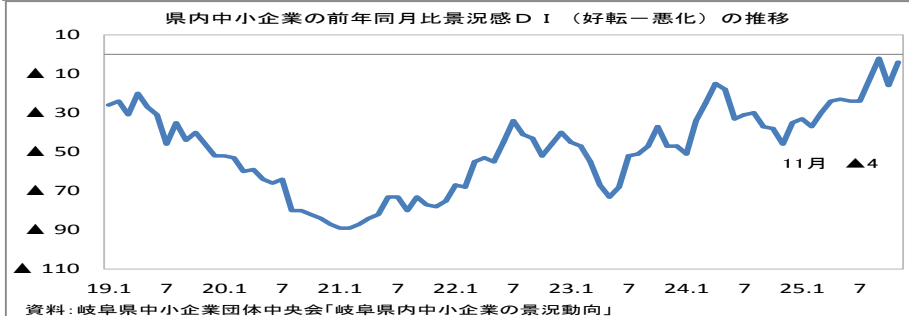
○11月の鉱工業生産指数は、3.2%減の84.5となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。



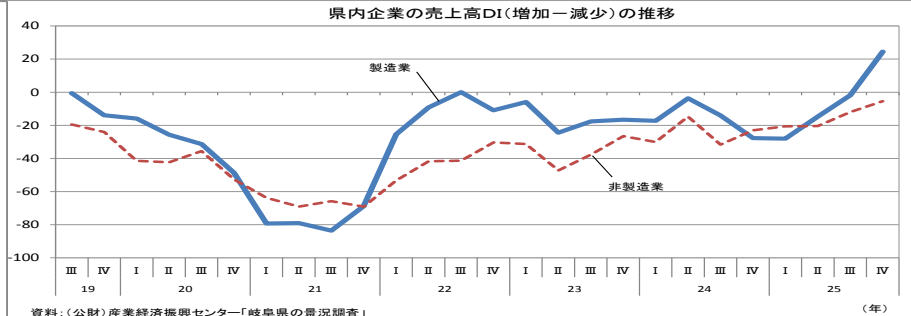
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」



県統計課「岐阜県鉱工業指数」



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」



資料: (公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

現場の動き

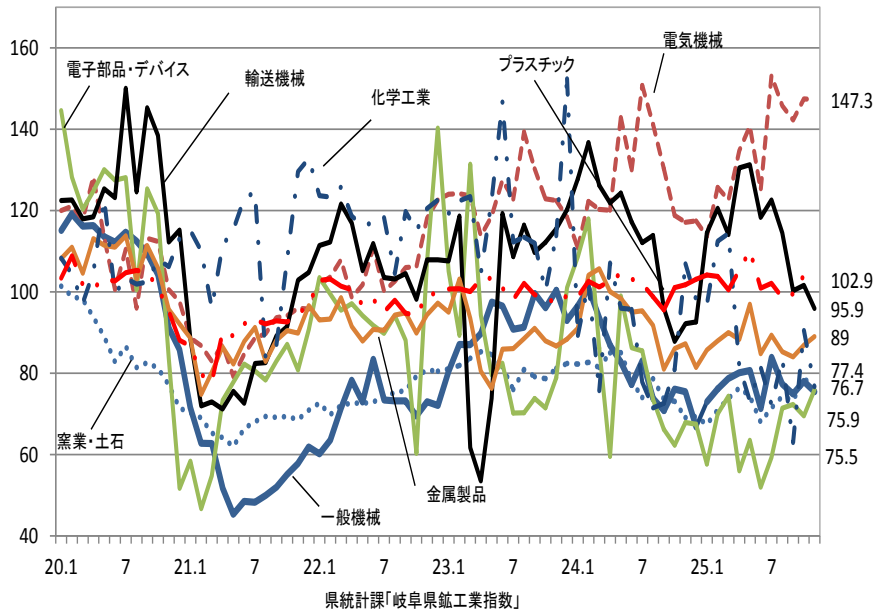
- ◆受注量は、先月同様高い水準で推移している。トヨタの生産目標が出て、北米への輸出が好調のようで、4月以降もある程度の受注が維持できる見通し。
- ◆海外向けの製品は北米、アジアなど全般的に好調である。
- ◆トヨタ全体の生産量が伸びており、引き続き好調な状況が続いている。(以上、輸送用機械)
- ◆昨年12月頃から受注が増えてきている。さばききれないほどである。
- ◆4月以降、消費税アップの駆け込みの反動減が10~20%予想しているが、自動車部品の北米向けを始めとして輸出が円安基調のため、更に拡大する可能性がある。(以上、生産用機械)
- ◆消費税増税前の駆け込み需要の影響により、出荷量が大幅に増加している。(金属製品)
- ◆1月度の単月売上高は前年を上回ったが、原料価格の高止まりが続いており収益面は極めて厳しい。
- ◆引き続き好調な状況で、1月には新規部品の発注もあり出荷量増となった。(以上、プラスチック)

製造業-2(業種別)

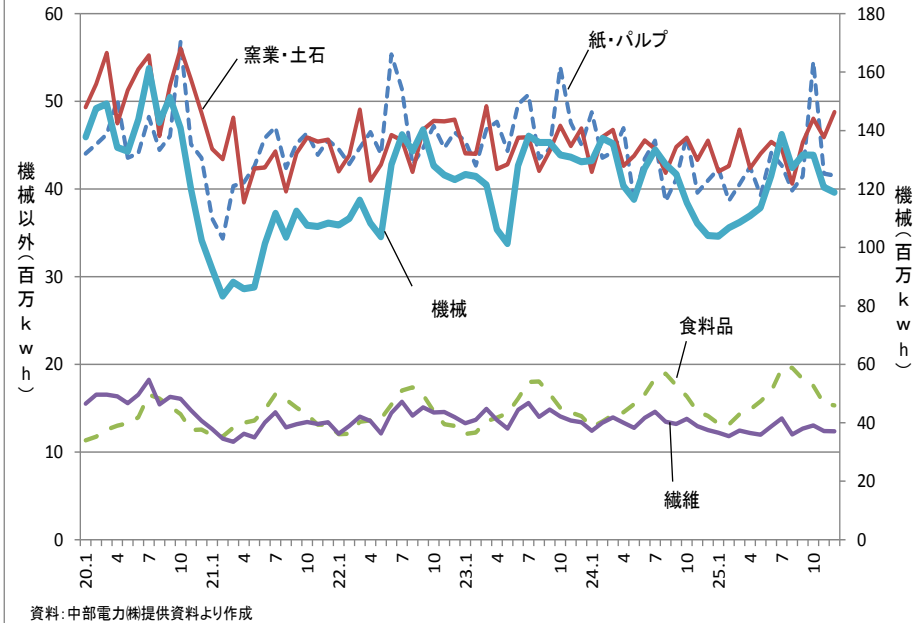
○11月の生産指数は、電子部品・デバイス、家具などで上昇したものの、電気機械、プラスチック、輸送用機械など多くの産業で低下した。

○12月の工場向け販売電力量は、繊維で前年を下回ったものの、紙・パルプ、窯業・土石、機械で前年を上回った。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成17年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



現場の動き

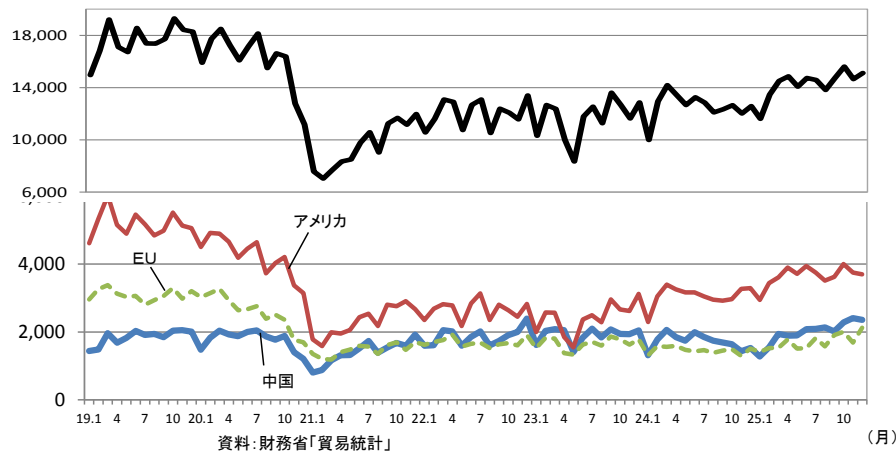
- ◆昨年同時期と比べて売り上げに大きな変化はない。(アパレル)
- ◆円安によるマイナス(燃料・燃料原料等の値上がり)を受け、厳しい状況が続いている。(陶磁器)
- ◆景気が良くなってきているといわれているが、実感はゼロ。(刃物)
- ◆景気は例年のこの時期に比べて良くない。(紙)
- ◆1月は、前年同期比プラス151%。11月、12月に引き続いて好調を維持している。(木工)
- ◆年末あたりから売上は上昇している。都内の一流ホテルと取引があるが、売上が増えてきている。景気が良くなったとまでは言えないが、少しずつ良くなっているように思う。(食品製造)

輸出

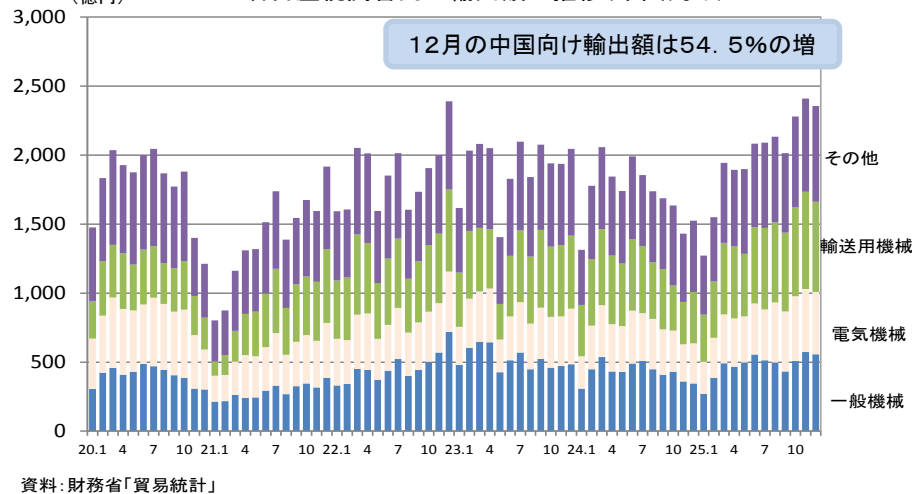
○12月の輸出額(名古屋税関管内)は、15,109億円と前年同月比20.1%増となった。

○中国向け輸出は一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比54.5%増と9カ月連続の増加となった。アメリカ向け輸出も一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比12.3%増となり、15か月連続で前年を上回っている。

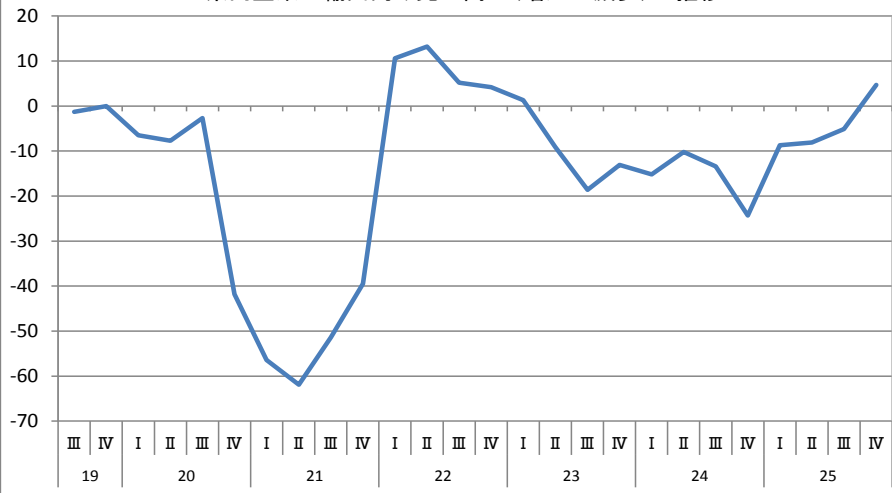
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



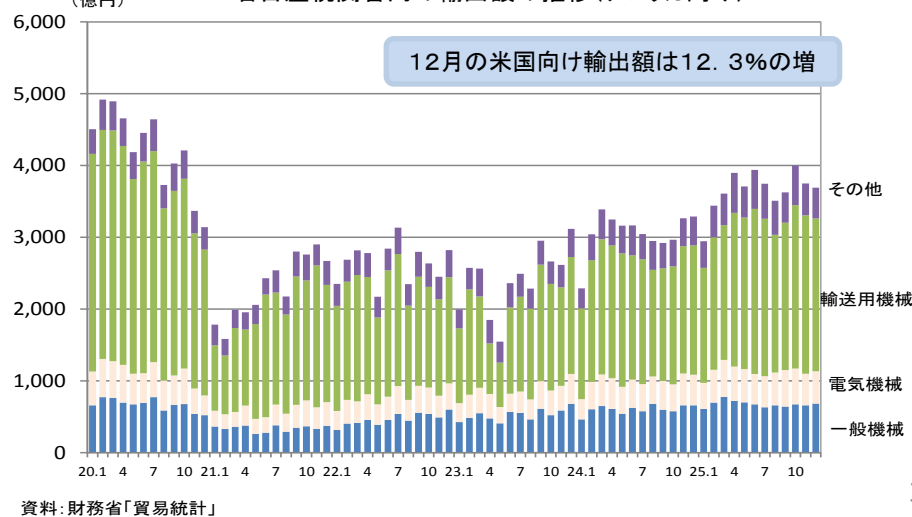
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)



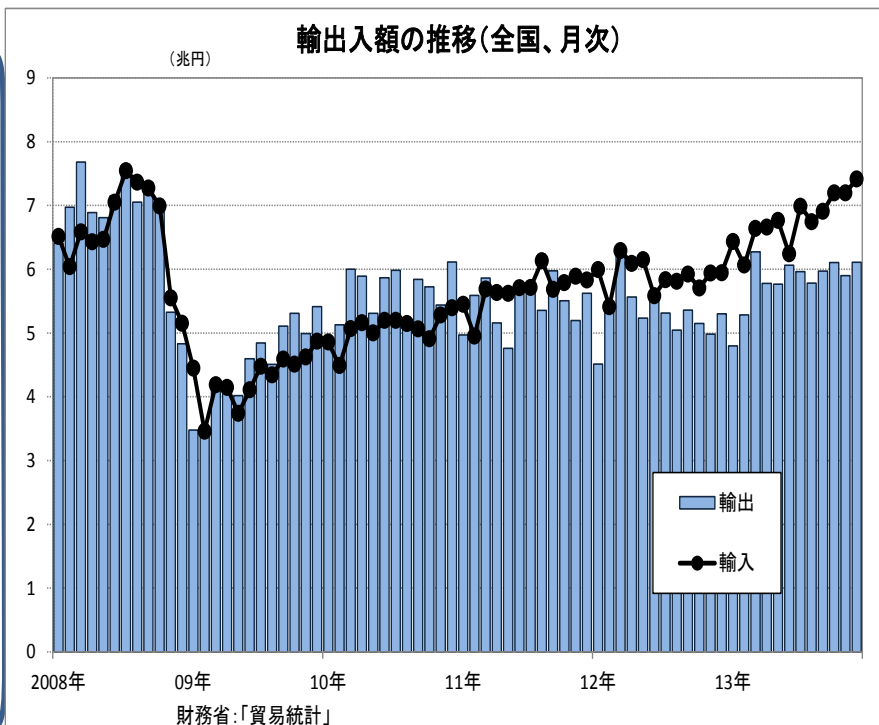
円安・原油高等による影響について

- ◆輸入原料が高騰しているためコスト高が継続しているが、販売単価への転嫁が出来ず利益を圧迫している。(食品製造)
- ◆先月に続きLNG(液化天然ガス)が大きく上がった。昨年の同月と比較して約4割上昇しており、営業利益に影響している。
- ◆ブタンガスの値上がりが目撃され、リーマンショック以降40%上昇した。(以上、輸送用機械)
- ◆円安により原材料費が上がっており、高止まり傾向が続いている。取引先との価格交渉を行っているが、価格に転嫁できず収益を圧迫している状況である。(金属製品)
- ◆当社の原材料の大半は原油派生製品であり原材料の調達価格は一昨年頃から高値圏で推移し収益圧迫の要因です。
- ◆為替相場が円安に転換した影響で原料価格が上昇しており、取引先に対して販売価格への転嫁を再度お願いしているが環境は厳しい。燃料費増大による電力量・物流費等のコストアップについては、各種コストダウンによる自助努力でなんとか吸収したいが限界に達しており、引き続き販売価格への転嫁活動を続けているが同様に厳しい。(以上、プラスチック)
- ◆円安については海外生産商品の割合が多いため、大きく影響を受けている。(アパレル)
- ◆円安の影響で原料のパルプの価格は上がっているし、原油価格の高騰も業況に大きな影響がある。(紙)
- ◆円安と原油高で燃料は昨年より11円60銭の上昇。コスト削減の限界にきており、非常に苦しい。(運輸業)
- ◆製品価格の上昇分を価格転嫁することが難しく、売り上げが増加しても利益は減少。(製材所)

アベノミクスの効果・影響について

- ◆顧客からの増産依頼等はなく、消費者の購入意欲には繋がっていないと感じられる。(食品製造)
- ◆アベノミクスの効果としては、景気が上向きになっていると感じられる。(輸送用機械)
- ◆円安による材料費、燃料費負担が多くなり、当社は負の影響のみと言っても良いくらいである。(非鉄金属)
- ◆産業競争力強化法の制定は、当社及び販売先企業においても生産設備投資の促進に大いに活用できる。(生産用機械)
- ◆官需の増大など国内全体ではよくなっているのかもしれないが、目に見える形での直接の影響はない。(はん用機械)
- ◆アベノミクスの効果は、全く感じられない。(金属製品)
- ◆特に効果が及んでいるとは感じない。高額品の売れ行きにも変化は特にない。(アパレル)
- ◆アベノミクスの効果は感じられないとの声が多く、増税後の消費縮小にも危機感あり。(商店街)

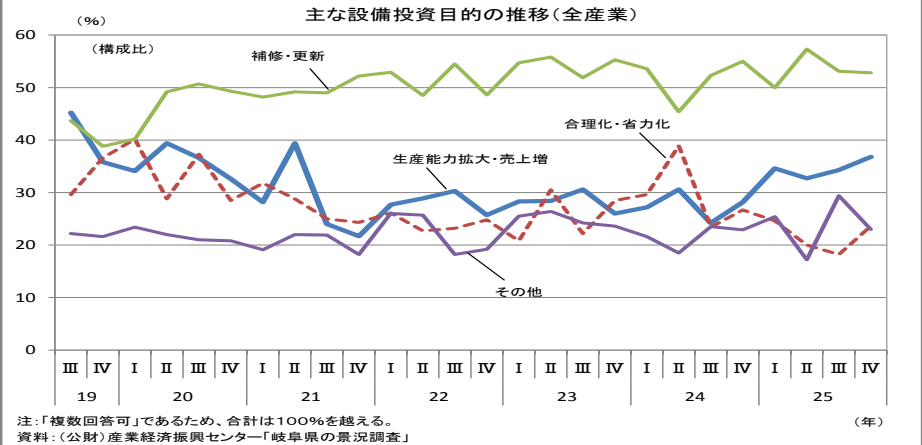
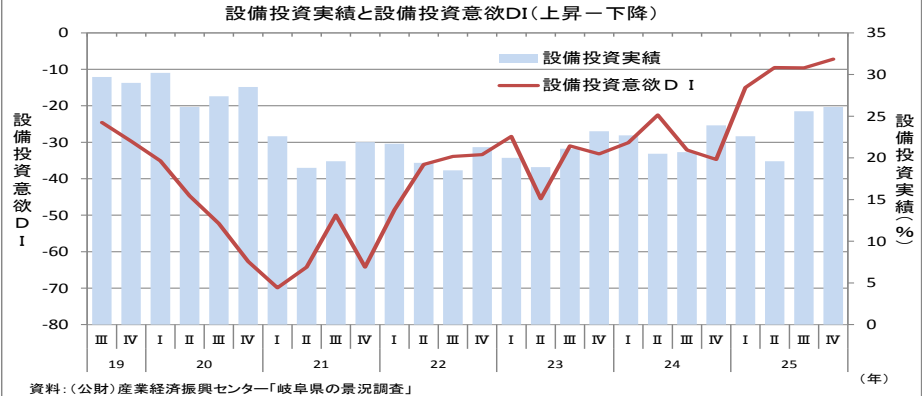
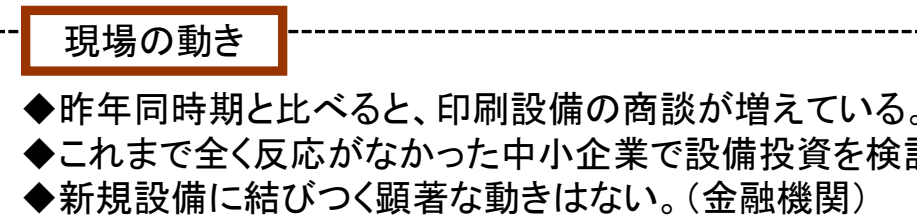
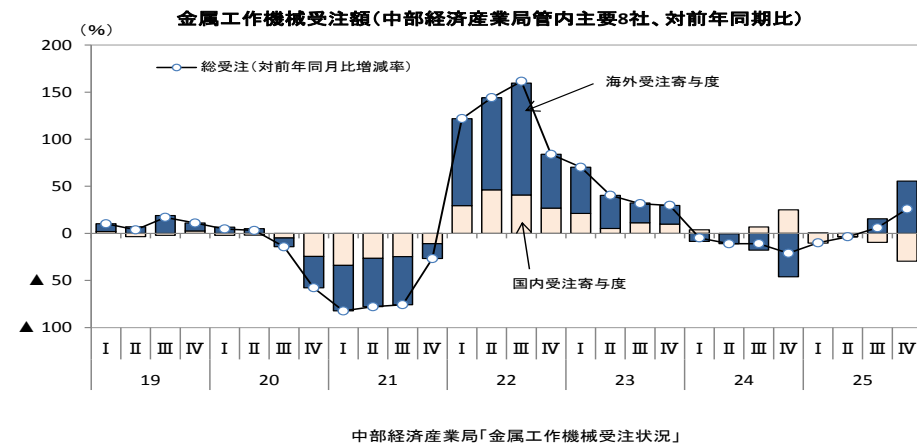
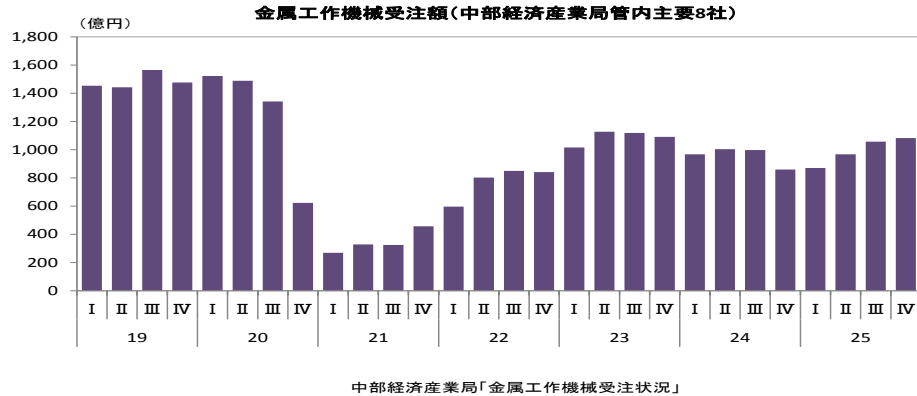
輸出入額の推移(全国、月次)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が増加したことで、2期連続でプラスとなった。
- 設備投資意欲DIは改善している。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加している。



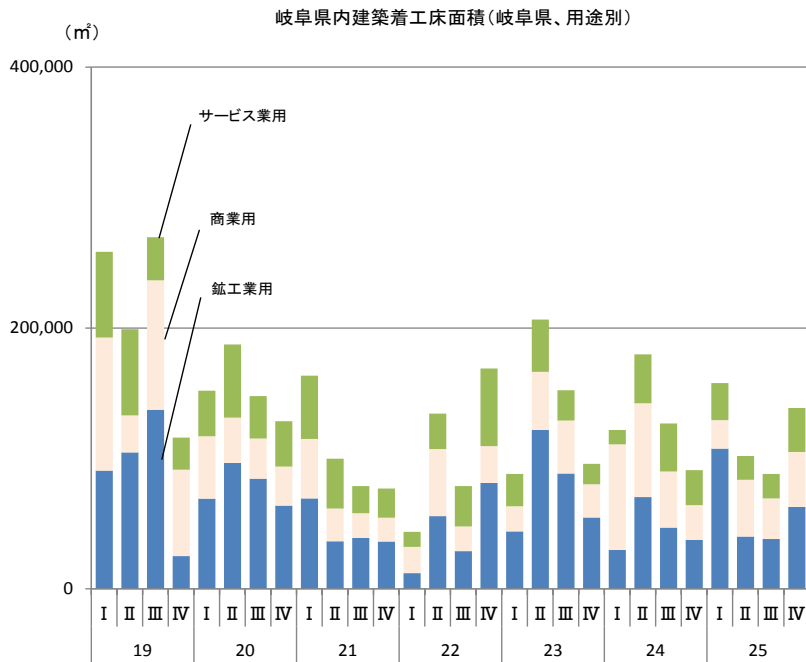
現場の動き

- ◆昨年同時期と比べると、印刷設備の商談が増えている。景気回復の現れであると思います。
- ◆これまで全く反応がなかった中小企業で設備投資を検討する動きが多少出てきた。(生産用機械)
- ◆新規設備に結びつく顕著な動きはない。(金融機関)

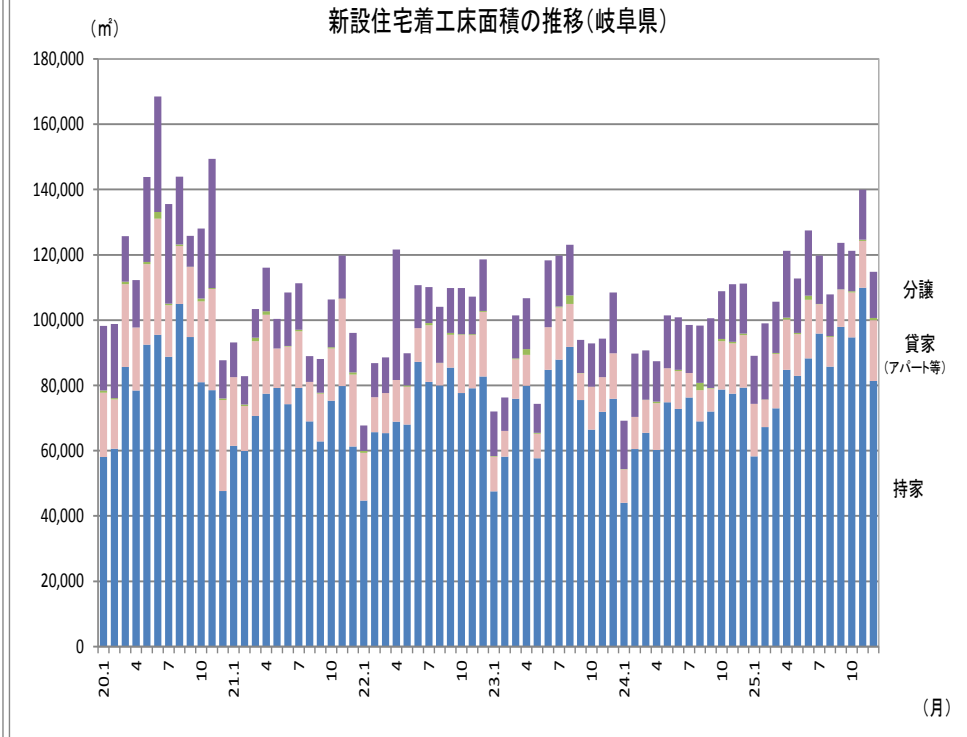
住宅・建築投資

○25年10-12月期の建築着工は、全ての用途で増加したことにより、全体では前年同期比52.3%の増となった。

○12月の住宅着工は、分譲では減少したが、持家、貸家が増加したことにより、全体では前年同月比3.2%の増と16カ月連続の増加となった。



資料：県建築指導課「岐阜県建築着工統計」



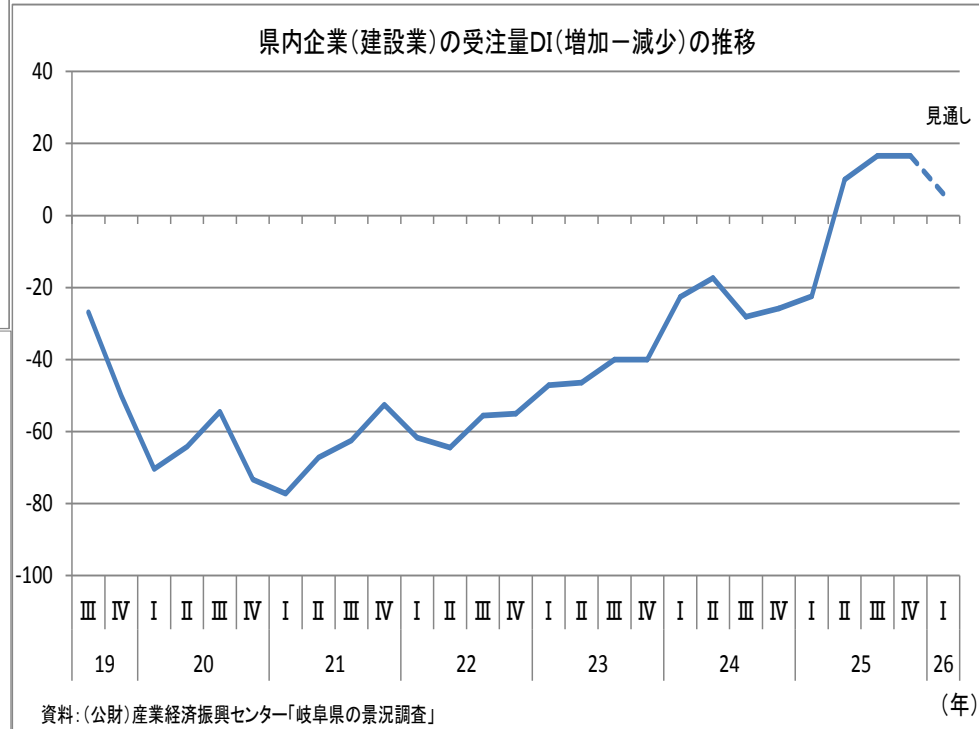
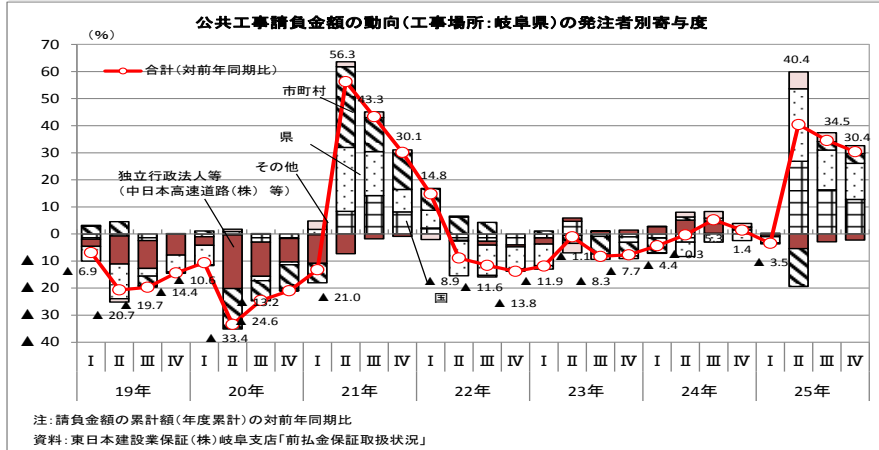
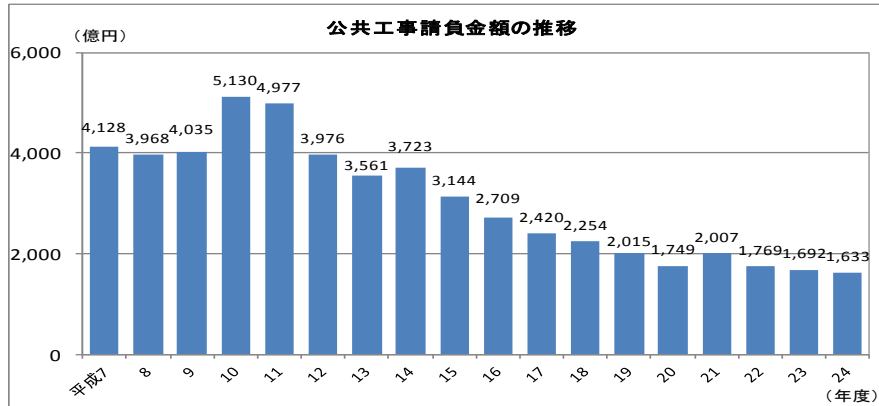
現場の動き

- ◆注文はあるが、原木が確保できず対応できない状況が続いている。
- ◆消費税の駆け込み消費による製品価格の上昇で売上があがっている反面、燃料、電気代の上昇により製造コストも上昇しているので、製品価格上昇分=利益というわけでは無い。(以上、製材所)
- ◆原木の流通量は、前月から横ばい状況である。需要に対して生産が追いついていない。また、木材輸送車の確保が困難な状況である。(森林組合連合会)
- ◆うちだけに限ったことではないと思うが、住宅ローンは前年に比べて調子がいい。(金融機関)

公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。

○25年10－12月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村からの発注が増加したため、対前年同期比30.4%増と3期連続で前年同期の水準を上回った。



現場の動き

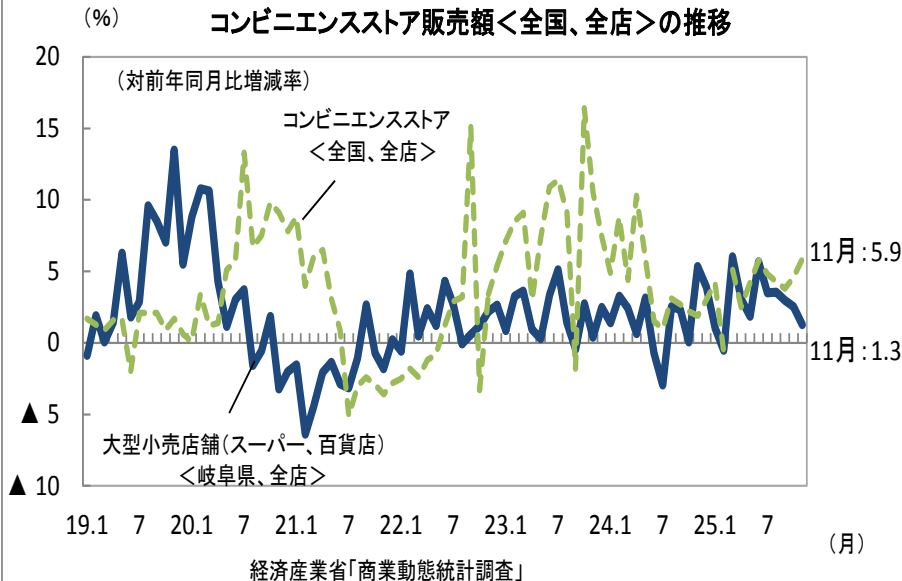
- ◆ 全体的に手持ち工事も多く、技術者も不足している状況である。一方、資材価格が高騰しており各社利益を確保できているかは今年度の各社決算を注視する必要がある。(業界団体)
- ◆ 建設関係で、職人などの人材不足の話をよく聞く。これらに伴う人件費の上昇及び円安に伴う燃料費の上昇があり、建設は仕事があっても楽なわけではない。(金融機関)

個人消費(流通・小売)

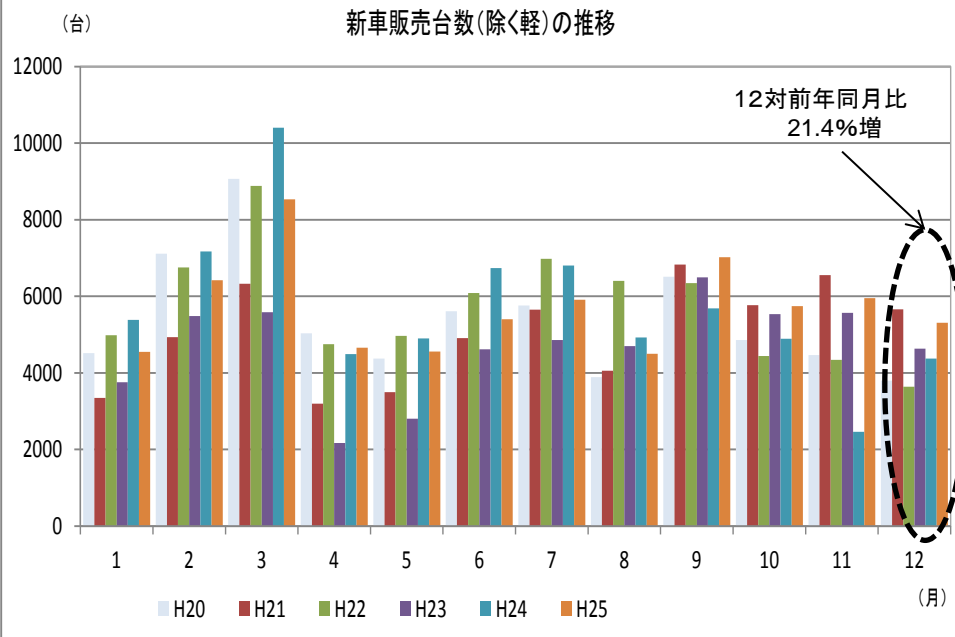
○11月の大型小売店販売額は、対前年同月比1.3%増と9カ月連続の増加となった。

○12月の自動車販売は前年同期比21.4%増と4か月連続の増加となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除<軽>)の推移



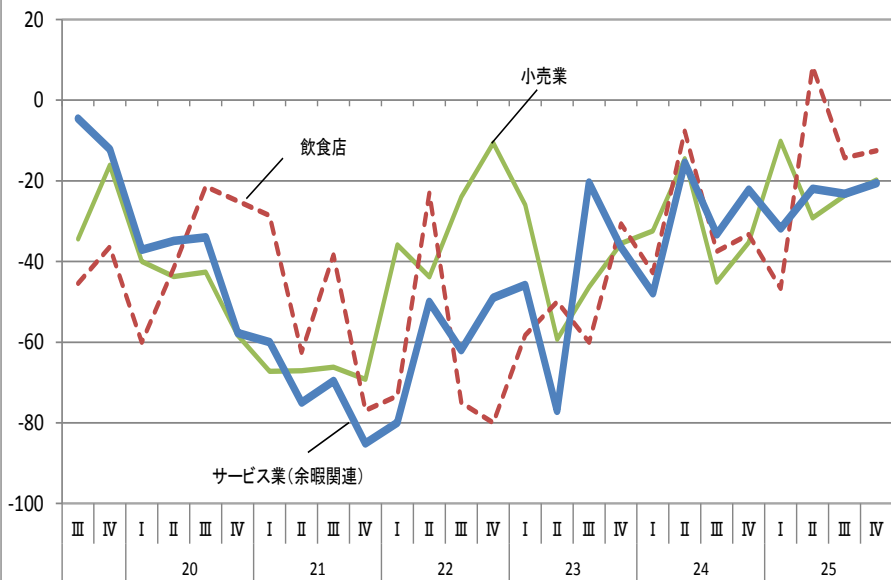
現場の動き

- ◆「衣料品・食料品」は概ね例年並みの動き。
- ◆景気が持ち直していることもあるだろうが、シニア層が食品も含めいいものを買っていく傾向がみられる。いいもの、新鮮なものは高くても納得すれば買われる方が多い。低価格でも低品質だと納得されない。都市部にある店舗とは購買傾向が違う。(以上、大型小売店)
- ◆1月は正月期間も含め順調に推移。ダウンジャケットなどの冬物重衣料の動きが特によかった。(スポーツ用品)
- ◆1月の売り上げは前年を上回った。客数は微減となったが客単価が伸び、全体でもプラスとなった。高額商品を中心に、増税前の駆け込み需要の影響が感じられる。お客様も十分意識して購入されている。ただ、4月以降は確実に反動があるだろう。(家電)
- ◆年始の売り上げは昨年比べてよくなかった。(コンビニ)

個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第Ⅳ四半期の小売業については売上高は増加したものの、販売価格は減少。サービス業については売上高、販売価格ともに増加。

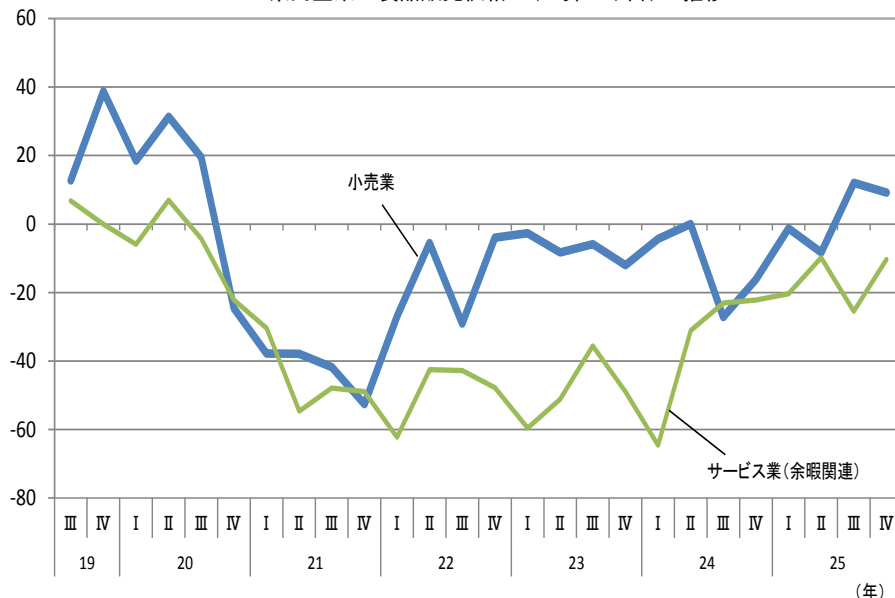
県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



資料:(公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

(年)

県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



資料:(公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

(年)

現場の動き

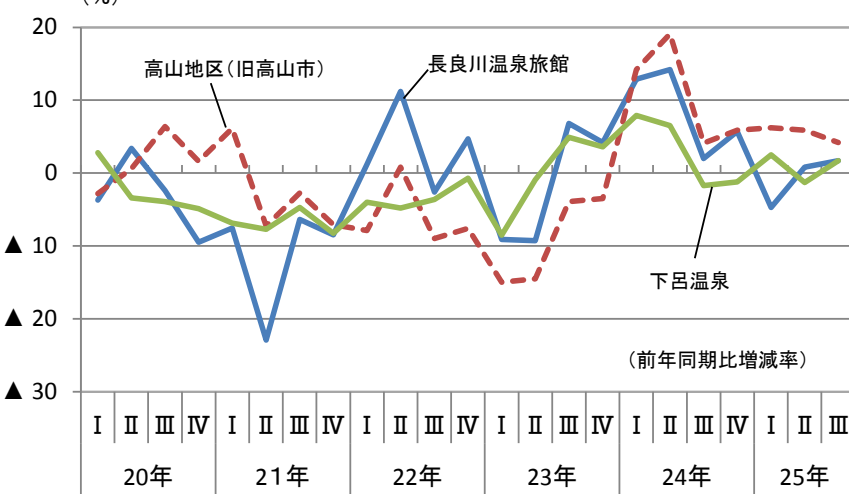
- ◆1月の売り上げは前年同月比で95%。前半は今ひとつだったが、後半になりよくなってきている。(大垣市商店街)
- ◆人通りは例年と変わらないが、売り上げはよくない。アーケードの補修と照明をLEDにしたことで、明るくなり雰囲気がよくなった。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆年始も休みが長く、観光客が多い。そのおかげで売り上げは微増。冷え込む時期で観光客は少なくなるが、今年は雪が少ないためか観光客は多い。(高山市商店街)
- ◆前年同月比で100%。バーゲンセールを実施していて前年並み。(多治見市商店街)
- ◆売り上げ、客数とも対前年同月比で増であった。(アクティブG)
- ◆全般的に堅調で、太陽光発電・自動車部品が好調。
- ◆荷量は全体的に増えている。消費増税前の駆け込み需要も一因。トラックの稼働率が高くドライバーが不足しており、ドライバー1人当たりの負担が増加している。(以上、運輸業)

観光

○平成25年第三四半期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比1.7%、高山地区(旧高山市)が4.2%、下呂温泉が1.7%と全ての地区で増加した。

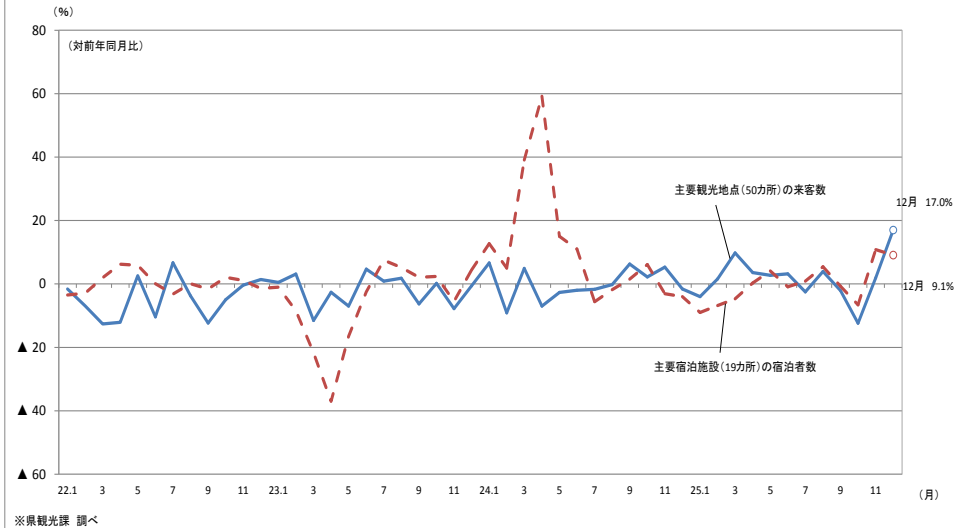
○主要観光地における12月の観光客数は、前年同月比17.0%増と2か月連続で前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同9.1%増と2か月連続で前年を上回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



県統計課「グラフで見る岐阜県経済」

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



※県観光課 調べ

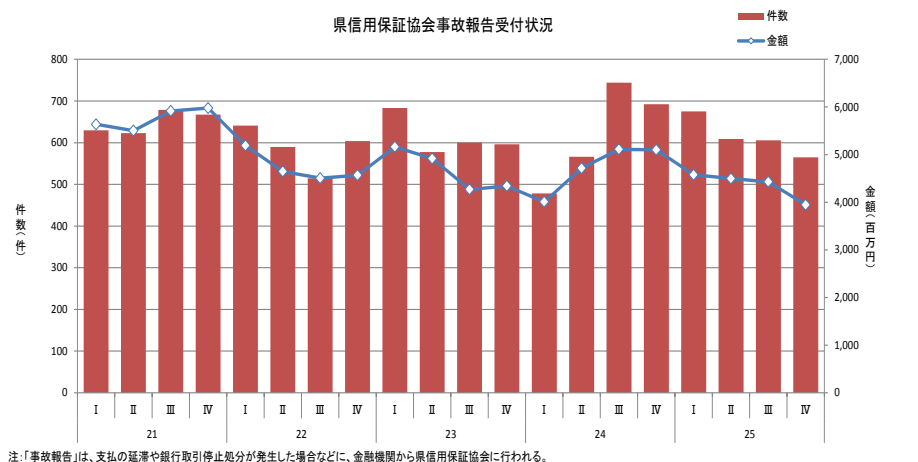
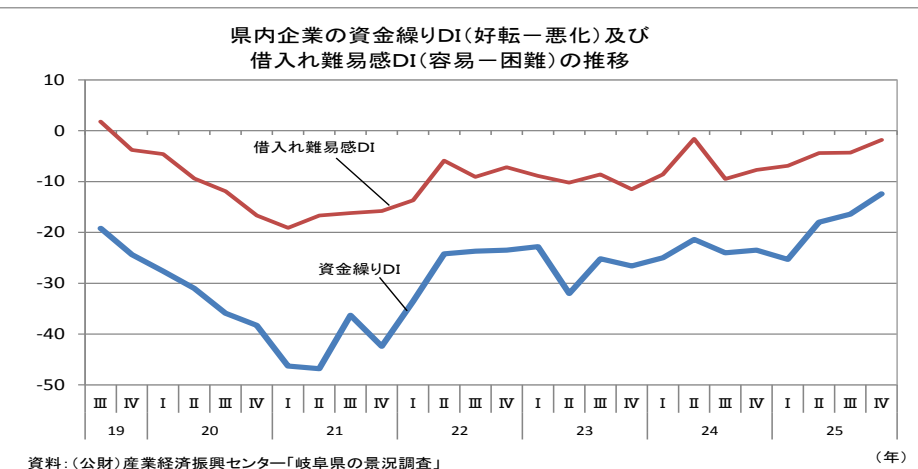
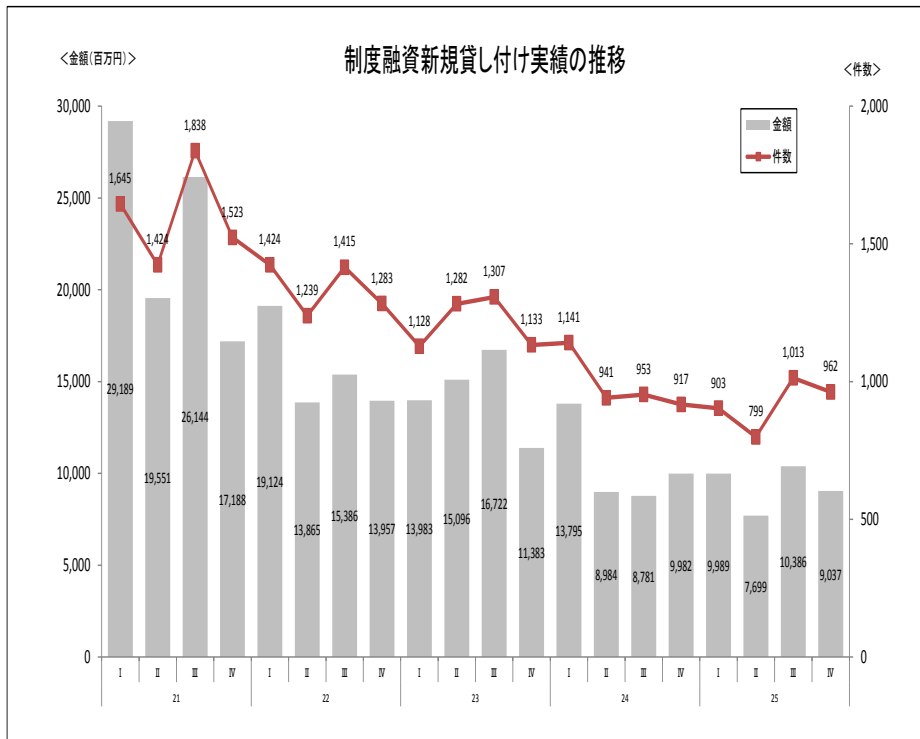
現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、宿泊客数は総じて前年をやや上回る模様。インバウンドは台湾や香港、東南アジアが好調で、旧正月の期間も多くの宿泊がある模様。(宿泊施設の総括)
- ◆1月のインターネット予約は前年に比べ5割増加。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆インターネット旅行サイトや施設ホームページからの予約が増加傾向。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆リピーター利用やインターネット予約が好調で、前年を上回る見通し。 ◆インターネット予約が前年の2割増しと好調。
- ◆トータルでは個人客は前年に比べ好調で、団体客も前年並みを確保。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドを含めた団体客が下支えし、トータルでは前年の水準を上回った。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆香港、タイ、マレーシアなどが増えている。特に香港はインターネット等を利用した個人客が増加。
- ◆台湾を中心にインバウンドはほぼ前年並みの水準を確保。(以上、下呂市内の宿泊施設)
- ◆旧正月での団体予約が多い。(高山市内の宿泊施設) ◆旧正月はインバウンドの予約が集中。(岐阜市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

<新規融資実績>

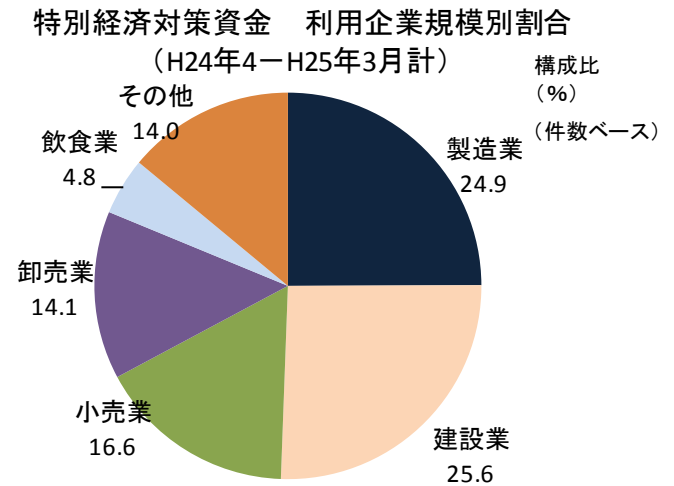
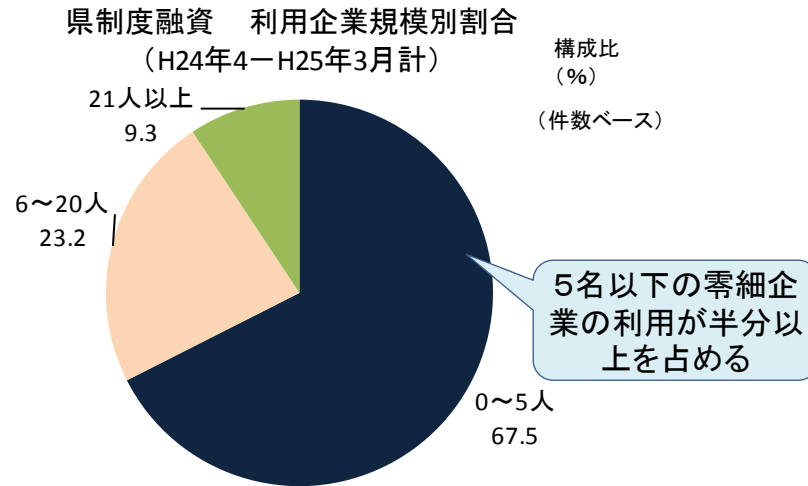
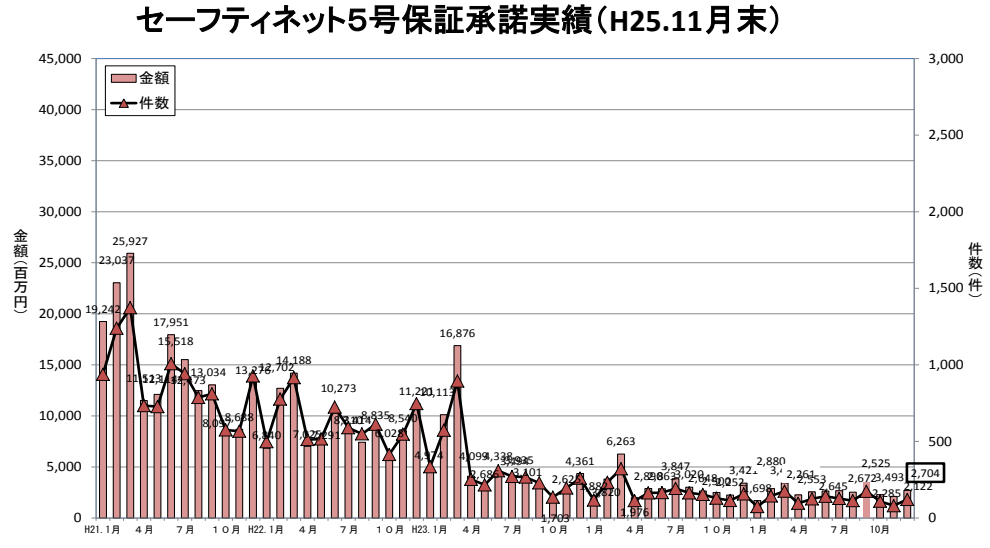
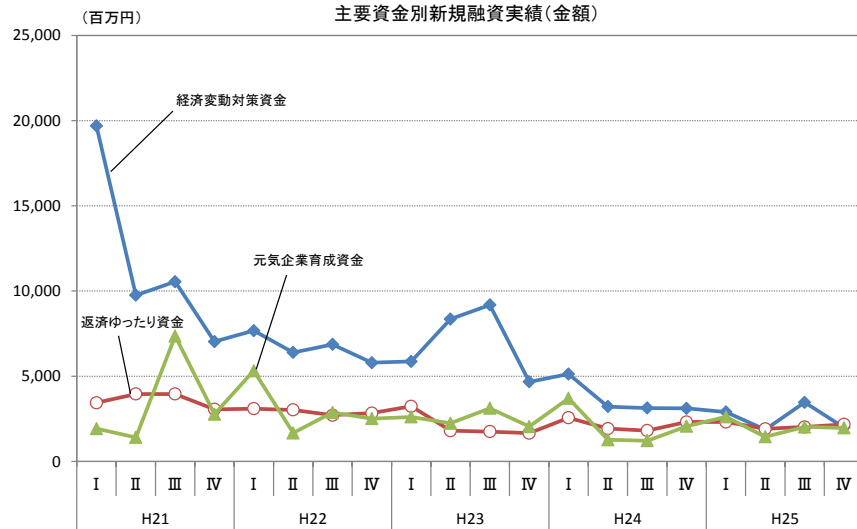


現場の動き

- ◆若干兆しが出てきたというところ。まだ上向きとまではなっていないし、零細はまだ厳しい。
- ◆資金需要自体には変化はない。ここ2、3カ月で見ても、顕著な動きはない。(以上、金融機関)

資金繰りー2

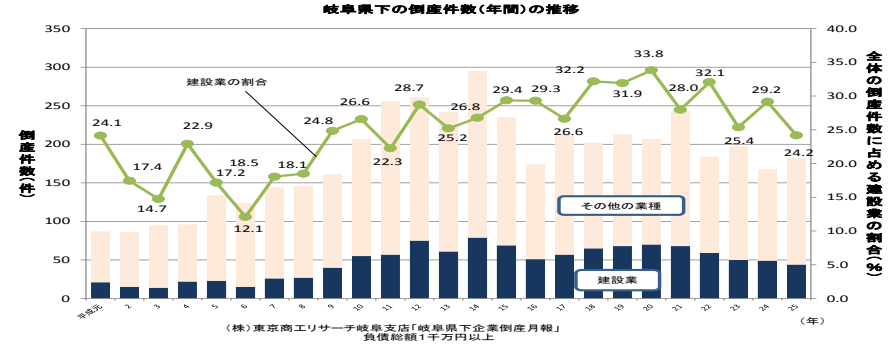
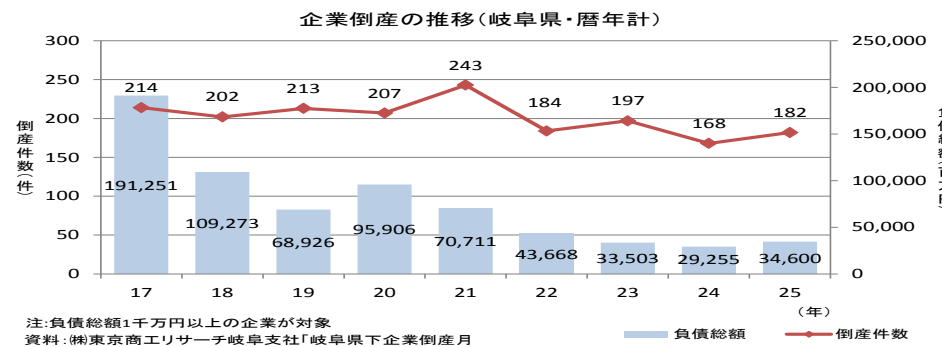
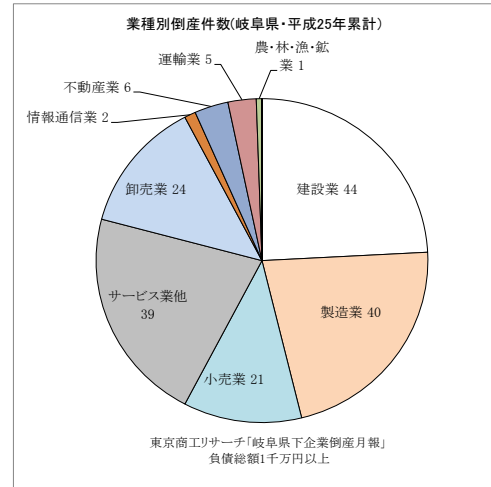
- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。



倒産

- 平成26年1月の倒産件数は前年同月比で6件減の13件となった。
- 平成25年の倒産件数は182件となり、前年から14件増加。負債総額は346億円で2年ぶりに増加に転じた。

○業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



専門機関の分析(東京商工リサーチ)

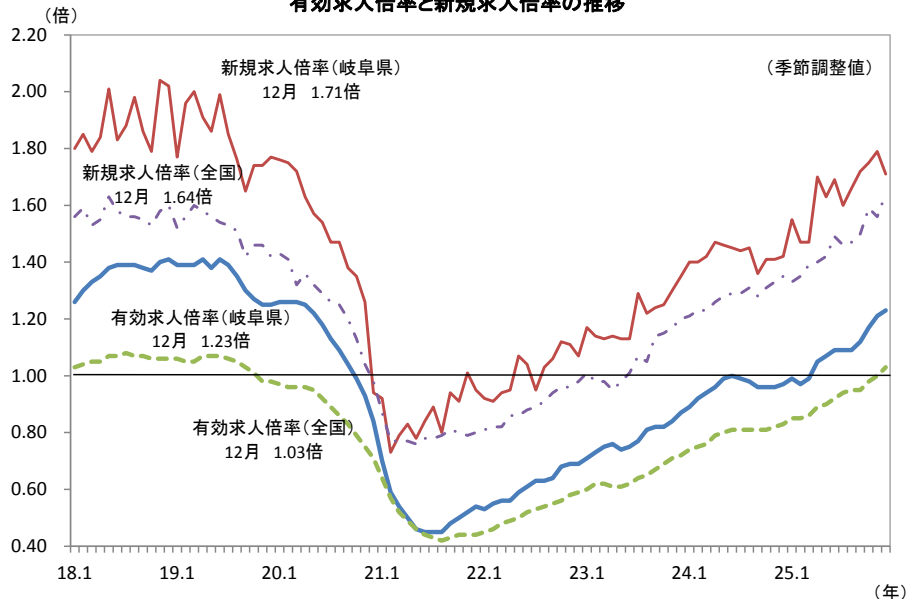
- ◆平成26年1月の県内倒産件数は13件、負債総額は20億9100万円となった。倒産件数は前年同月比6件減少、負債総額は前年同月比67.9%の減となった。
- ◆所謂政府の経済政策の効果が国内経済の環境を変えているのは確かではあるが、中小零細企業において景気浮揚の恩恵を受けていないとの見解が多数を占めており回復感が実感として乏しい状況に変わりはない。
- ◆中小零細企業の倒産動向について、円滑化法による政府支援策で延命し、抜本的な経営改善が先送りされた企業は多く、消費税引き上げ後の景気環境の失速による場合の影響は不透明である。

雇用

○12月の有効求人倍率は1.23倍と前月より0.02ポイント上昇。また、新規求人倍率は1.71倍と前月より0.08ポイント低下。

○12月の雇用保険受給者人員は6,790人と前年同月と比べて13.6%減少した。

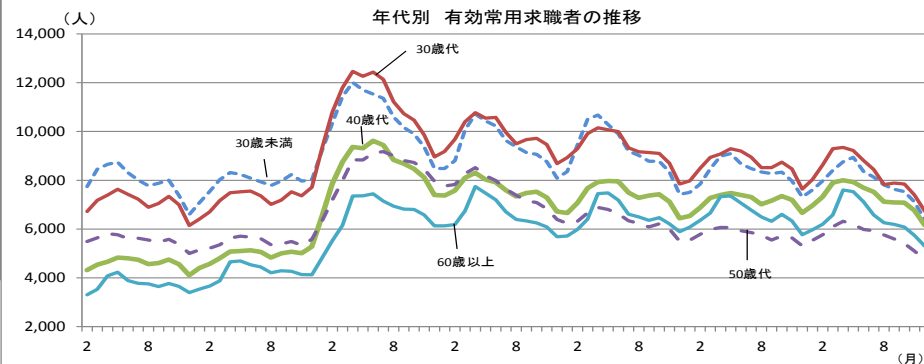
有効求人倍率と新規求人倍率の推移



雇用保険受給者実人員の推移(岐阜県)



年代別 有効常用求職者の推移

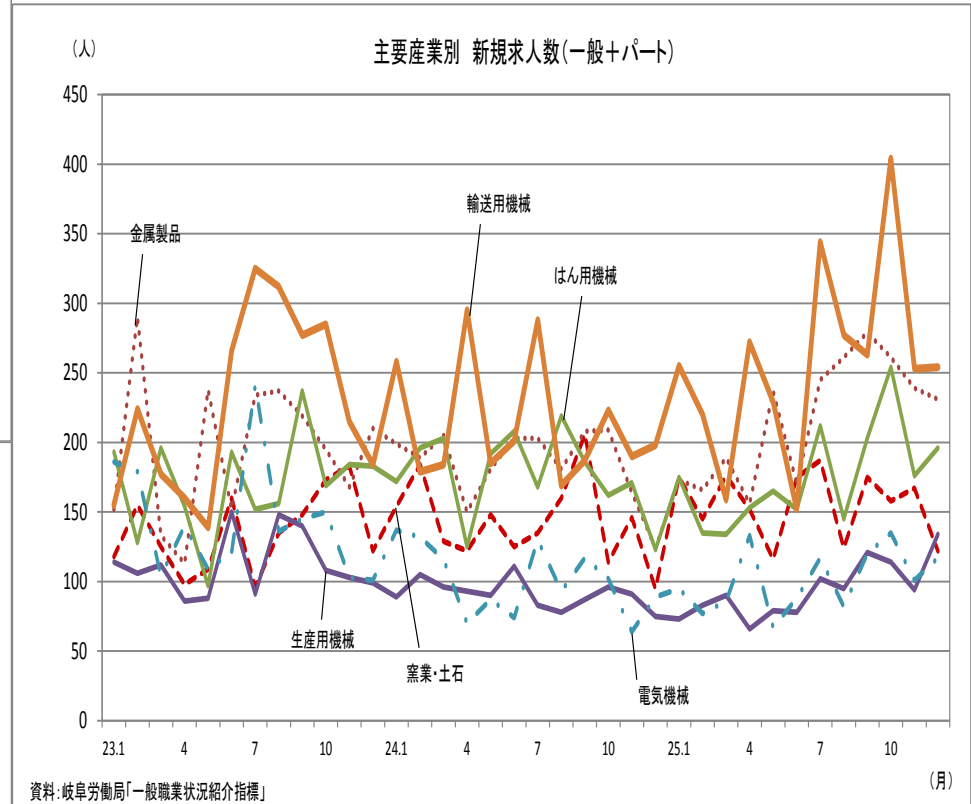
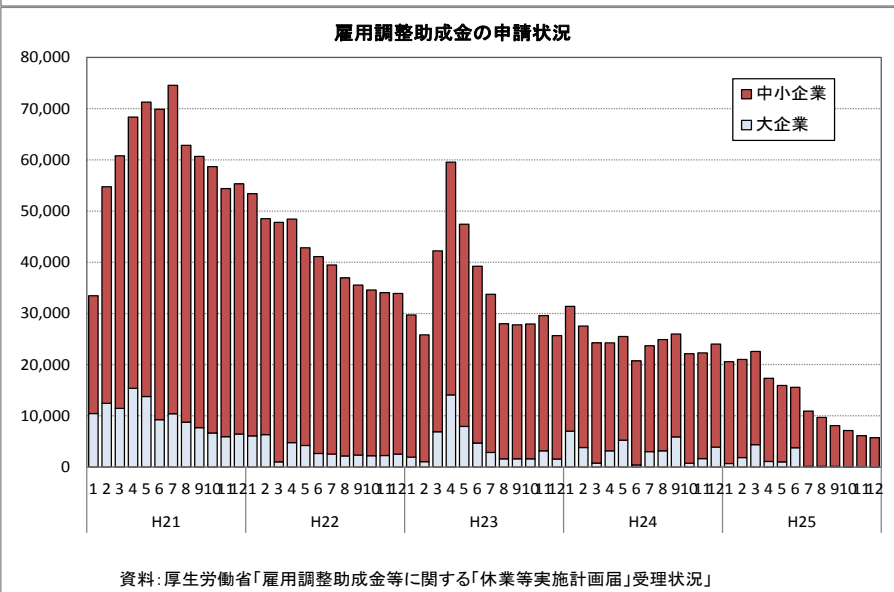
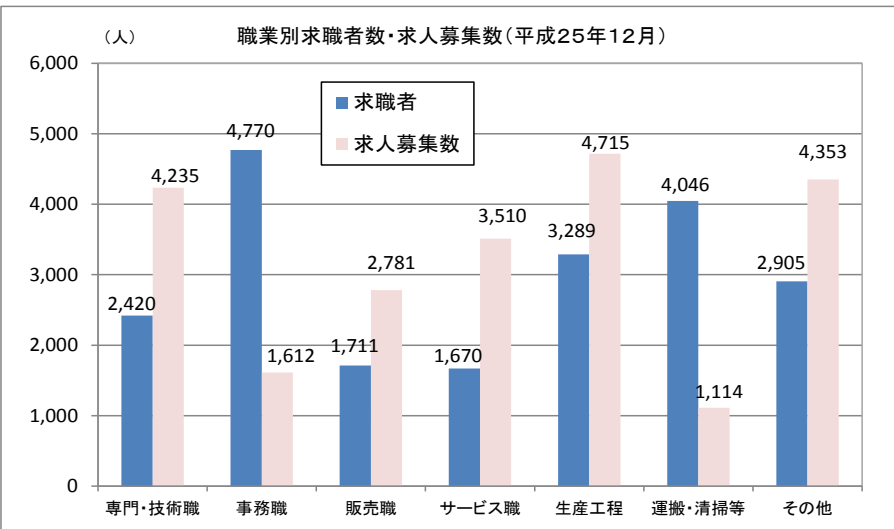


現場の動き

- ◆出荷量が増加したことにより業務量が増えており、残業等により対応している。(輸送用機械)
- ◆1月もフル生産状態を継続している。製造現場に派遣社員2名を増員した。(生産用機械)
- ◆派遣社員の退職に伴う補充を行いたいが、可児・美濃加茂近辺での人員確保が困難になっている。(はん用機械)
- ◆12月に中途採用で事務系2名を採用したが、1月も中途採用で事務系1名、技術系1名を採用した。引き続き、営業系や技術系の中途採用の募集を行っている。(金属製品)
- ◆欠員を補充するため、契約社員を1名、パート社員を1名採用した。一時的な増産に対応するため、派遣社員を2名採用した。(プラスチック)
- ◆再来年度以降も毎年5人程度採用予定である。(住宅建設)
- ◆企業での消費税UP前に繁忙をむかえ、景気は上向き傾向の様子。企業の雇用への関心度高く、雇用検討する企業も増えている。市場での人材不足感は否めない。(人材派遣会社)

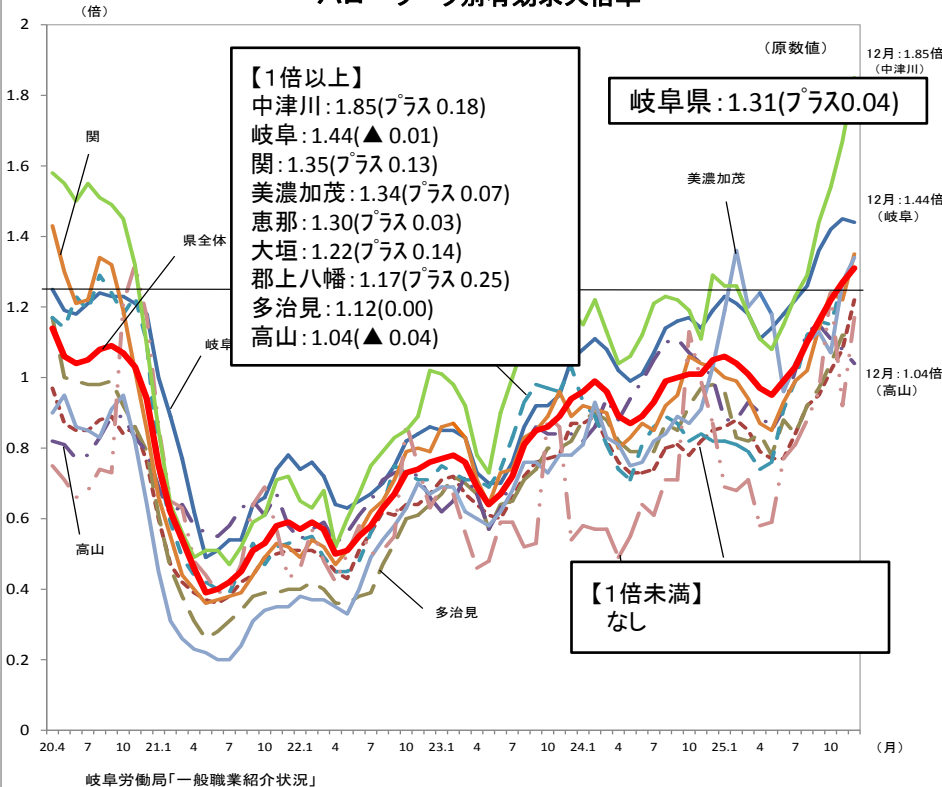
雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は窯業・土石等で減少したものの、はん用機械、生産用機械等の産業で増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。
- ◆窓口は混雑している。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。
- ◆窓口はやや混雑している。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数が増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。
- ◆窓口はやや混雑している。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。
- ◆窓口は混雑している。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。
- ◆窓口は混雑している。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

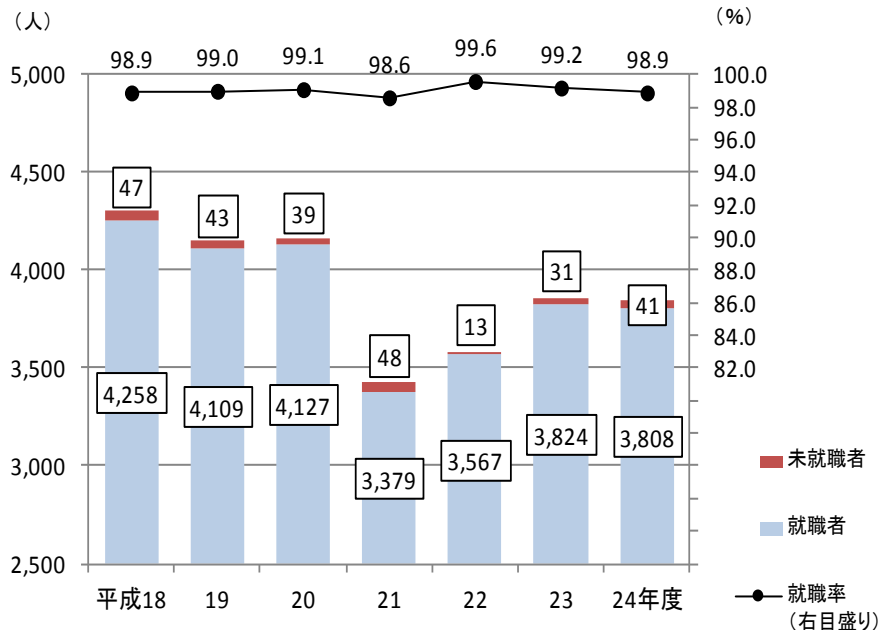
<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は横ばいだが、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。
- ◆窓口は混雑している。

雇 用(高校新卒者の就職)

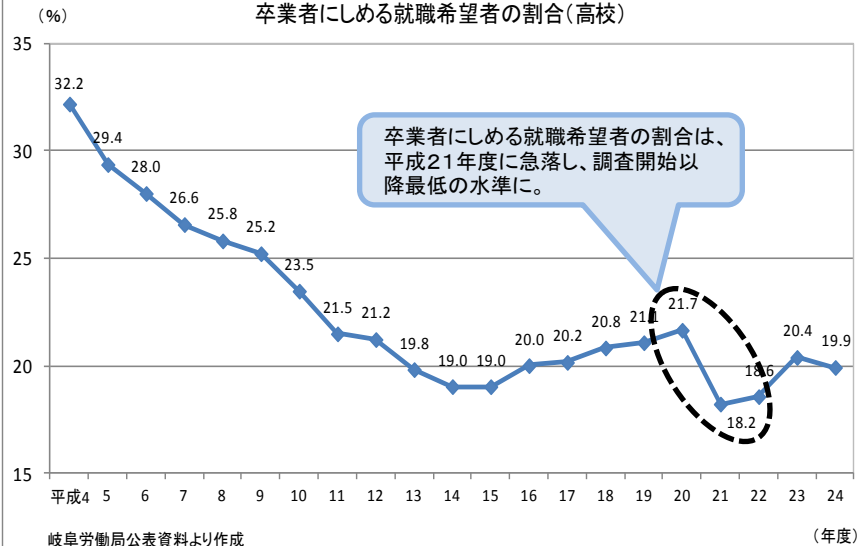
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



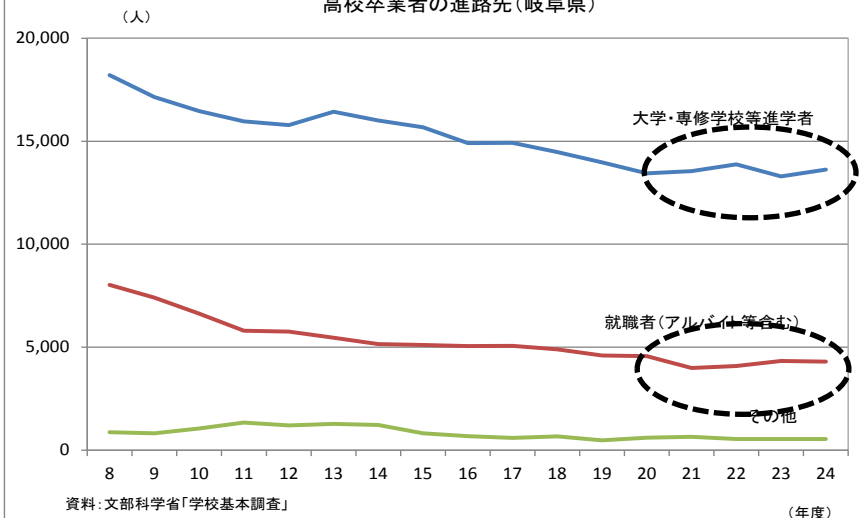
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



岐阜労働局公表資料より作成

高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

現場の動き(求人状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、多治見、高山、関、美濃加茂、中津川>

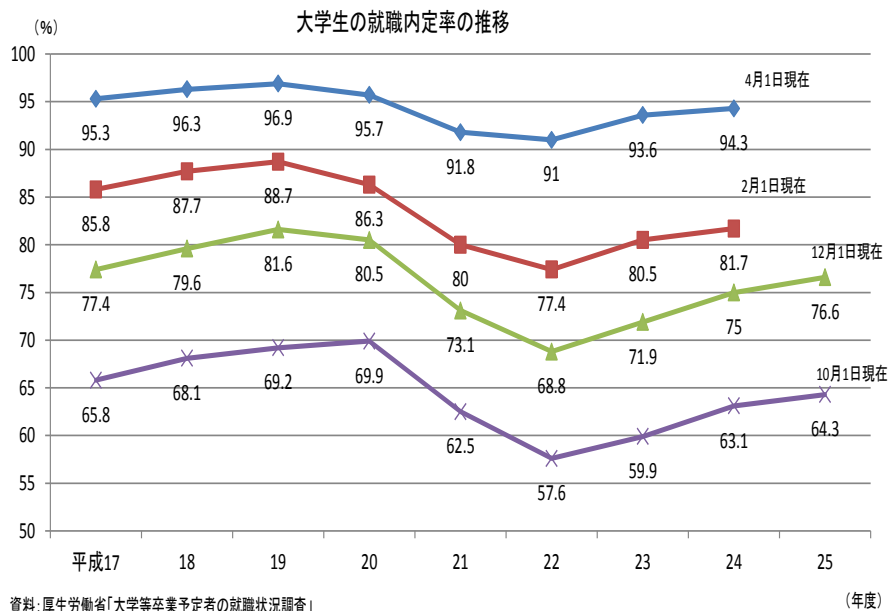
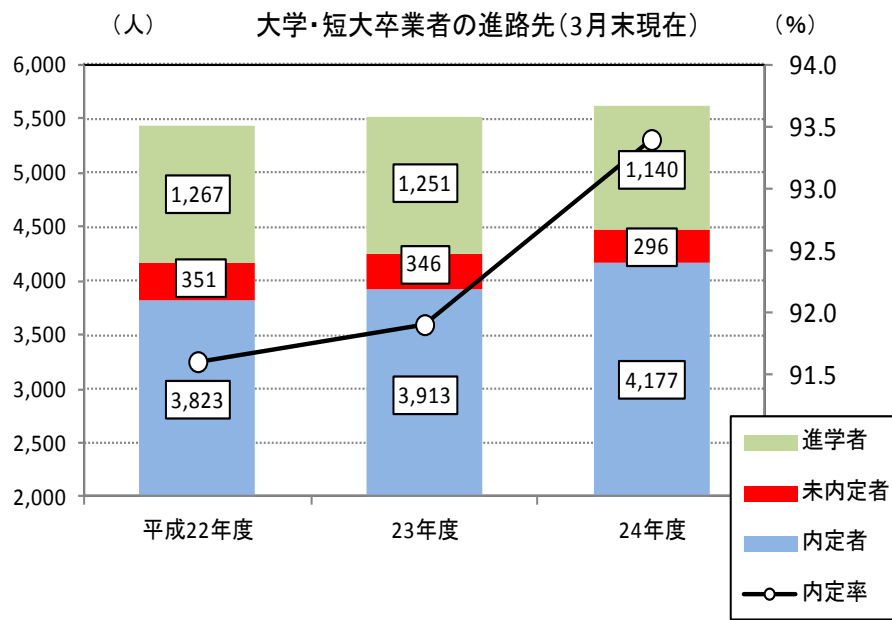
◆高校卒業予定者の求人が増加。

<ハローワーク恵那>

◆高校卒業予定者の求人が減少。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 平成24年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 平成25年度の卒業予定者については、前年度同期より内定率が上昇傾向。



現場の動き

【岐阜県内の主な大学】

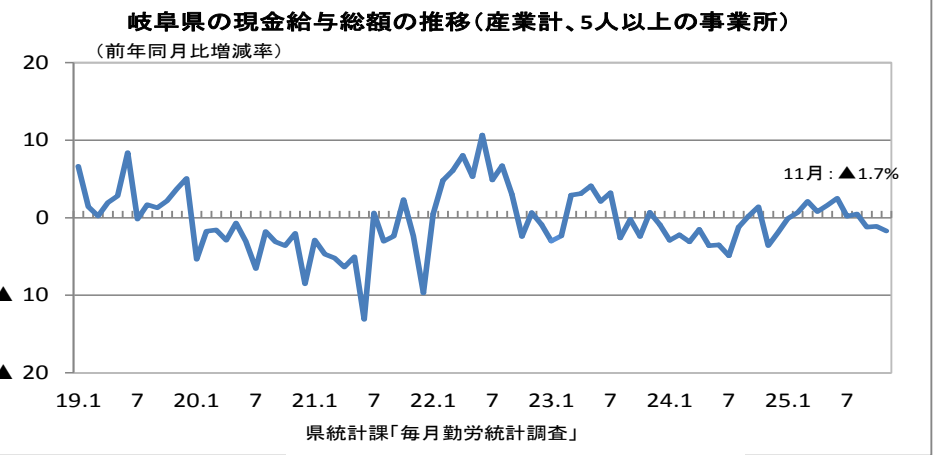
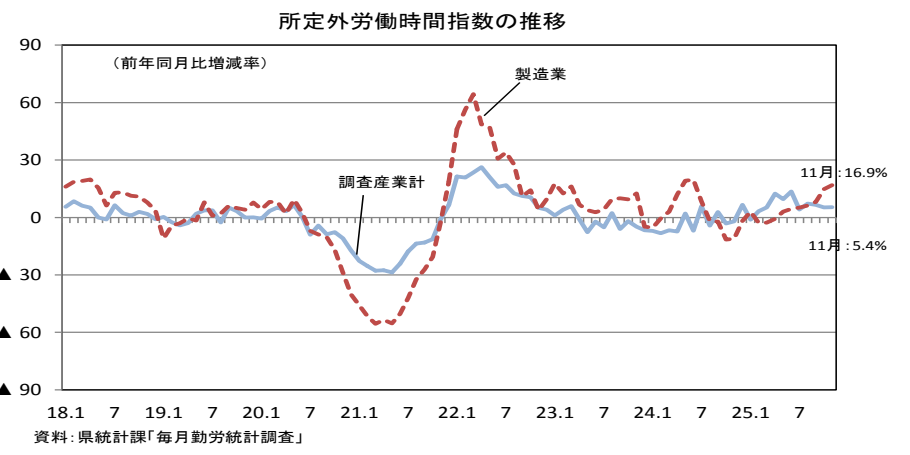
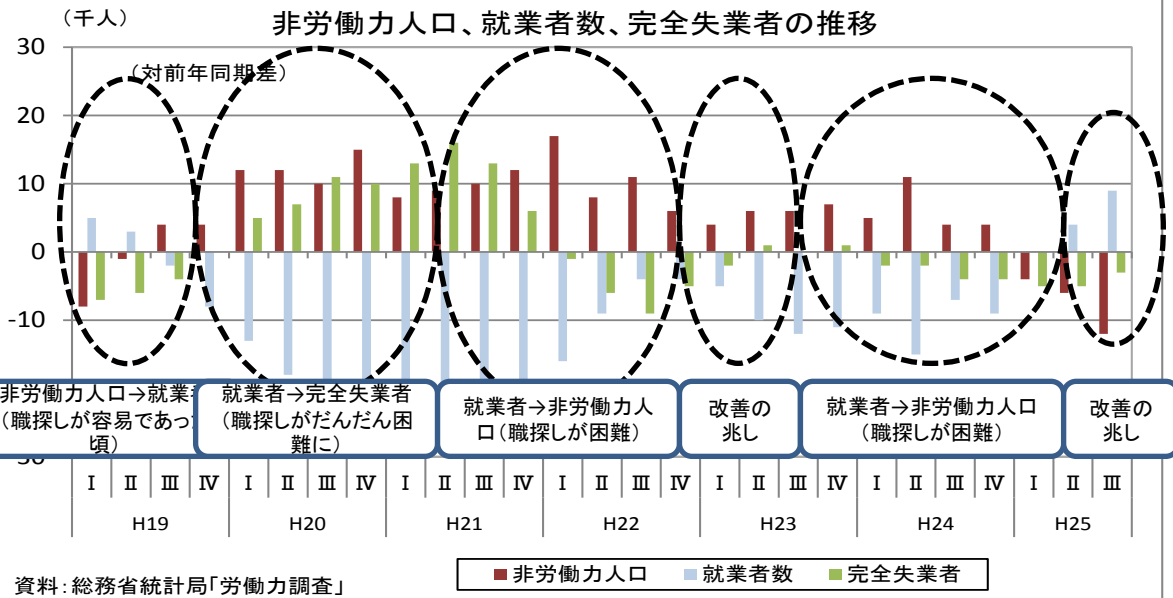
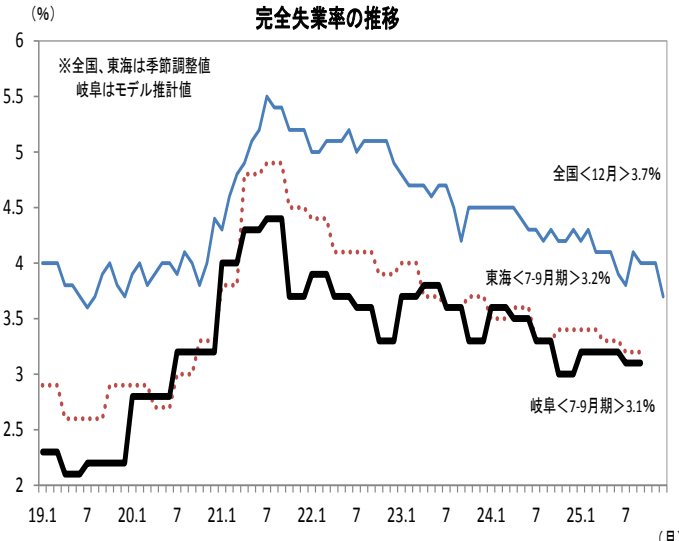
- ・2014年卒の内定率は学部生の内定率は1月初旬の内定率は80%前後(学生報告ベース)。機会工学科・電気電子工学科など内定率が高いが、文系学部がやや低めの状況。
- ・2014年卒の内定状況は74%程(報告ベース)の状況。未内定の学生は30名余り。
- ・2014年卒の内定状況は67%を推移(学生報告ベース)。

【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は1月末の時点で89%超えの状況(昨年比10%超え)。
- ・2014年卒の内定状況として1月上旬で約64%(学生報告ベース)の状況で、昨年度より1.2%程アップ。
- ・2014年卒の内定状況は、1月中旬で68%程度、昨年度より数%程ダウンしている。

雇用(完全失業率)

○平成25年第Ⅲ四半期の完全失業率は3.1%と前期比で0.1ポイント改善。
 ○平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。その後再び厳しい状況となったが、直近では改善する兆しがみられる。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送機械関連を中心に受注や生産が増加しており収益が改善する傾向が続いている。
生産用機械やはん用機械では、国内企業が設備投資を検討する動きがみえ始めた。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上げが増加している一方で、原材料価格及び燃料価格の上昇が続き、製造コストを押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工では住宅着工増により好調な状況が続いているが、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、大型店では衣料品及び食料品は概ね例年並みの動きであった。商店街ではアベノミクスの効果が感じられないとの声が多く、消費税増税後の消費縮小に危機感が感じられた。
- 観光は、施設によってバラつきはあるものの総じて前年をやや上回る模様。インバウンドは台湾や香港、東南アジアが好調で、旧正月の期間も多くの宿泊がある模様。
- 雇用面では、生産量の増加により業務量が増えたため人手不足が発生している企業が出ている。派遣会社に対しては企業からの派遣要望が増加している。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然少ないが、下げ止まりの兆しが感じられる。